

第 62 回国立大学図書館協会総会 研究集会
平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)報告 サマリー

北米におけるシェアードプリント WEST 及び自動書庫調査

大阪大学情報推進部情報基盤課
森石 みどり

北米で取り組みが進められているシェアードプリントの中から、WEST(Western Regional Storage Trust)と、関連して自動書庫の調査を行ったので報告する。

シェアードプリントとは、電子リソース普及とアクティブラーニングスペースの拡大の要求を背景に、利用が減少した冊子体資料を複数の大学で共同の蔵書として保存・管理する取り組みである。重複雑誌の除却等の整理を可能としながら、個々に除却を判断することによる資料の消失を防ぐ。保存コストの効率化とスペースの回復が可能であり、北米では、すでに 30 以上のシェアードプリントが進められている。

平成 25 年 8 月『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ)』では、アクティブ・ラーニングのための空間の確保のため、自動書庫やシェアードプリントの導入が提案された。審議まとめを元に調査テーマを設定した。シェアードプリントプログラムの中から WEST を調査対象とし、WEST の幹事館である CDL(California Digital Library)の担当者インタビュー及び保存書庫 NRLF や自動書庫を設置している WEST 参加館ユタ大学・ユタ州立大学の訪問を行った。各担当者より WEST の運営に加え、自動書庫の運営、館内のアクティブラーニングスペース等についてお話を伺った。

WEST は西部を中心に 100 以上の研究図書館が参加し、雑誌のバックナンバーを複数の図書館に分散保存する。保存する雑誌は、電子ジャーナルの有無と参加館内の重複数を元に設定した消失リスクを基準にして選定される。リスクの少ない雑誌は保存に必要なコストが小さくなるよう、また、リスクが高い雑誌は現物確認を必要とし、安全で確実な保存を行うように保存ルールが設定されている。

訪問先では資料の「保存コスト」が意識され、利用の少なくなった資料の保存コストを最小化する方法として、シェアードプリントが選択されていた。自動書庫もいずれ満杯になること、今後もコモنز等のアクティブラーニングスペースの拡大が必要なことから、スペースの問題は自館だけでなく、他館と協力して解決すべき問題として認識されていた。こうした認識を共有していることがシェアードプリントへの協力につながっていた。